

我が息子と社会的かかわり

息子は発症してから 28 年になるが、発症した時は東京八王子の駒木野病院に入院、退院後は、多摩府中保健所のデイケアに週 1 回位通所し複数のグループワーカーさん、保健師さんなどに大変お世話になった（喫茶店での話し合い、花見、近くでのキャンプもあった）。

その後、精神障害者を抱える家族会「府中梅の木会」が運営する近所のレスポワール工房という作業所（当時）に不定期に相当長い間通所した。絵画の先生（今でも本人賀状やりとり）、SST の先生につき、この二つを一所懸命頑張っていた。公園清掃作業や布巾折り等も頑張り、これはお金をもらえた。一泊旅行なども実施され参加していた。尚ここの所長は今では有名な野村忠良さんだった（今でも本人賀状やりとり）。ここではいろいろな体験をした（本人談）。個人では英会話スクールで勉強し英検準 2 級も合格した。

その後龍ヶ崎市に転居し 21 年経過するがこちらに来てからは池田病院のデイケアや竜ヶ崎保健所のデイケアに参加した。個人では油絵教室に通っていた。その後は今でも続いている牛久のほっとピア工房（現ほっとピア・ワークス）に開所時から通所している（途中ブランクあり）。牛久市内で活動する精神障害者家族会「ほっとピア牛久の会（現ぬくもりの会）」の会員が中心となり、精神に障害のある方の自立と社会参加、社会復帰を図ることを目的として開所されたも

ので、ここに週平均2回ぐらい通所している。

それと、「イマココ龍ヶ崎」を設立されたO(オー)さんの長年のご尽力により、にぎわい広場でのまいんバザール、マクドナルドや建金家具での友の会、イマココでのゲームの会、友の会に参加し社会的関係を体験している。その他に、ピア・かたつむり会長の紹介で訪問看護を10年利用させて頂いている。

これらの事から一人の当事者に対し社会はいろいろな関わりを持って接して頂いていることが判る。この様な社会的資源や多大なる尽力に感謝すると同時に、当事者である息子が自ら通所している事に喜びをおぼえる。この様に振り返ってみると長い道のりを感じると共に、息子には息子の人生があると、つくづくそう思う。息子の人生を大事に見守ってあげたい。(T・Y)